

神崎市地域公共交通 運行計画検討資料（案）

令和 7 年 11 月

神崎市地域公共交通活性化協議会

1. 神崎市における地域公共交通の現状と課題

(1) 神崎市地域公共交通の現状

1) 市内巡回バス

巡回バス北部コース（西・東）、中部コース（西・東）、南部コース（西・東）は曜日運行で週2日、4便/日、神埼～千代田線は月～土までの週6日、6便/日の運行を行っている。

R3.10より巡回バスの運行コース・時刻変更、予約型乗合タクシーNORARUが実施され、現在の方式で運行がなされている。利用者数についてR4以降は徐々に増加しているものの、運行方式の変更前であるR3以前の利用者数までは回復していない状況である。

利用可能日数の減少が最も大きな要因であるが、1便にかかる運行時間が約1時間と長いことや、南部コースでは市中心部である神崎市役所本庁周辺に行くためには乗り換えが必要であることなども利用者数低迷の要因と考えられる。

市内巡回バス利用状況

	R3	R4	R5	R6
4月	449	202	184	241
5月	396	238	245	249
6月	371	234	217	268
7月	373	189	199	297
8月	321	216	198	245
9月	409	252	186	309
10月	202	243	271	316
11月	227	204	244	279
12月	219	202	227	322
1月	178	190	236	236
2月	164	189	233	238
3月	218	169	295	305
計	3,527	2,528	2,735	3,305

2) 脊振町通学バス

脊振町通学バス脊振山麓線、鳥羽院線、倉谷線は、月～土の週6日間運行している。脊振山麓線は平日5便/日、土曜日2便/日、鳥羽院線、倉谷線は平日4便/日、土曜日2便/日の運行を行っている。

R2年度の年間利用者数は7,140人であったが、利用者数は年々減少し、R6年度は年間利用者数3,162人で、8月の利用者数は100人を下回った。

脊振町通学バス利用状況

	R2	R3	R4	R5	R6
4月	355	630	512	262	287
5月	512	593	500	334	371
6月	810	734	644	345	328
7月	704	475	361	176	216
8月	249	177	205	113	95
9月	712	656	507	288	299
10月	748	657	535	335	348
11月	620	625	522	332	309
12月	675	586	421	260	245
1月	509	499	384	250	249
2月	609	573	520	304	243
3月	637	516	332	227	172
計	7,140	6,721	5,443	3,226	3,162

3) 市内巡回バス、脊振通学バスを利用しない理由

アンケート調査の結果では、市内巡回バス、脊振通学バスを利用しない理由は、「自家用車を運転して移動できる」が1,080人、49.2%で最も多かった。神埼市巡回バス、脊振通学バスに起因するものとしては「行きたい場所に路線がない」124人、5.7%、「運行本数が少ない」117人、5.3%、「乗りたい時間に運行されていない」86人、3.9%が多かった。

問2(2) 市内巡回バス、脊振通学バスを利用しない理由

自家用車を運転して移動できる	1,080 人	49.2%
行きたい場所に路線がない	124 人	5.7%
運行本数が少ない	117 人	5.3%
送迎してもらっている	87 人	4.0%
乗りたい時間に運行されていない	86 人	3.9%
バスの行先や方面がわからない	82 人	3.7%
発着時刻がわからない	76 人	3.5%
このようなサービスがあることを知らない	72 人	3.3%
乗り方がわからない	71 人	3.2%
移動に時間がかかる	60 人	2.7%
乗り場が遠い	59 人	2.7%
乗りたい曜日に運行されていない	50 人	2.3%
他の交通機関を利用している	45 人	2.1%
乗り継ぎが不便	43 人	2.0%
バス停に屋根やベンチがない	43 人	2.0%
乗り継ぎが面倒	37 人	1.7%
現金での支払が不便	16 人	0.7%
ほとんど外出しない	15 人	0.7%
時間通りにこない	12 人	0.5%
運賃が高い	11 人	0.5%
ノンステップ等バリアフリー対策が不十分	7 人	0.3%
合 計	2,193 人	100.0%

4) 予約型乗合タクシーNORARU

予約型乗合タクシーNORARU は、北部エリア、中部エリア、南部エリアの3つの運行エリアで巡回バス北部コース、中部コース、南部コースの運行日とは別日に週2日、指定施設行き5便/日、自宅行き5便/日が運行している。利用者数は、R4、5年度に増加したが、R6年度は前年度をやや下回った。乗車場所が自宅近く of バス停であることから、自宅からバス停までは歩いて移動する必要がある。このことが利用者数伸び悩みの一因ではないかと考えられる。

NORARU 利用状況

	R3 (10月～3月)	R4	R5	R6
4月	—	53	58	70
5月	—	62	74	82
6月	—	58	60	76
7月	—	54	77	69
8月	—	54	33	61
9月	—	47	62	67
10月	83	72	68	53
11月	89	65	62	57
12月	81	50	103	59
1月	71	59	74	47
2月	73	76	69	65
3月	50	67	78	66
計	447	717	818	772

5) ふれあいタクシー

ふれあいタクシーは、脊振エリアを運行エリアとし、運行日は月～土の週6日、脊振交流センター行き3便/日、自宅行き4便/日が運行している。NORARU と同様に、乗車場所が自宅近くのバス停であることから、自宅からバス停までは歩いて移動する必要がある。R3年度～R5年度までの利用者数は90人程度で推移していたが、R6年度は70人と減少した。

ふれあいタクシー利用状況

	R2	R3	R4	R5	R6
4月	6	12	9	8	13
5月	5	18	2	5	3
6月	6	0	8	5	5
7月	6	15	9	16	9
8月	13	23	11	19	9
9月	17	0	1	0	0
10月	1	0	3	0	1
11月	1	1	13	4	4
12月	18	1	3	5	8
1月	6	11	8	11	9
2月	6	4	3	7	4
3月	24	10	20	15	5
計	109	95	90	95	70

6) 予約型乗合タクシー（NORARU・ふれあいタクシー）を利用しない理由

アンケート調査の結果から、予約型乗合タクシー（NORARU・ふれあいタクシー）を利用しない理由は、「自家用車を運転して移動できる」が 972 人、56.1%で最も多く、次いで「このようなサービスがあることを知らない」が 196 人、11.3%であった。多くの人に利用してもらうためには、まず予約型乗合タクシーについて周知することが必要である。

問 2（4）予約型乗合タクシー（NORAU・ふれあいタクシー）を利用しない理由

自家用車を運転して移動できる	972 人	56.1%
このようなサービスがあることを知らない	196 人	11.3%
送迎してもらっている	84 人	4.8%
登録の仕方がわからない	84 人	4.8%
予約方法がわからない	82 人	4.7%
行きたい場所が運行区域内にない	40 人	2.3%
運行本数が少ない	39 人	2.3%
乗りたい時間に運行されていない	36 人	2.1%
帰りの時間が未定で予約ができない	26 人	1.5%
乗り場が遠い	25 人	1.4%
他の交通機関を利用している	22 人	1.3%
他の公共交通への乗り継ぎが不便	20 人	1.2%
移動に時間がかかる	19 人	1.1%
乗り継ぎが面倒	19 人	1.1%
乗合に抵抗がある	18 人	1.0%
ほとんど外出しない	14 人	0.8%
運賃が高い	14 人	0.8%
乗り場に屋根やベンチがない	9 人	0.5%
時間通りにこない	5 人	0.3%
現金での支払が不便	5 人	0.3%
ノンステップ等バリアフリー対策が不十分	3 人	0.2%
合 計	1,732 人	100.0%

7) 公共交通に関する公的負担額の推移

地域公共交通関連事業費の推移の過去5年間を見てみると、本市から地域公共交通活性化協議会への補助金は、R3年度が13,504千円と減少しているが、その他の年度は15,050千円～15,500千円の間で推移している。本市から幹線路線への補助金は、R2年度が34,085千円で最も高く、R3年度には25,015千円に減少したがその後は増加傾向にある。引き続き国・県の補助制度を活用し、財政負担の増大を抑制しながら、地域公共交通の維持に努める。



(2) 課題の整理

神崎市における地域公共交通の課題は以下のようなものが考えられる。

- ・ 移動手段の利便性が低い
- ・ 地域公共交通利用者の減少
- ・ 低い認知度
- ・ 公的負担額の増大

2. 神崎市地域公共交通の改善方針

(1) 改善方針の概要

神崎市地域公共交通の基本的な改善方針は以下のものが考えられる。

- ・ 地域の移動手段の利便性向上
- ・ 周知・広報および利用促進策の強化
- ・ 運行事業費増大の抑制

本資料では、上記のうち「地域の移動手段の利便性向上」を達成するための、新しい地域公共交通システムについて検討する。

3. 新地域公共交通システム

(1) アンケート結果の分析

■問4 (1) 望まれる交通形態

市民が望む新しい公共交通の運行形態は「わからない」を除くと、「予約型乗合タクシー」が355人、24.8%で最も多く、次いで「巡回バス」が284人、19.8%であった。

問4 (1) 市民が望む新しい公共交通の運行形態

わからない	534 人	37.3%
予約型乗合タクシー	355 人	24.8%
巡回バス	284 人	19.8%
無回答	196 人	13.7%
その他	63 人	4.4%
合 計	1,432 人	100.0%

■問4 (3) 予約型乗合タクシーに注力した場合の改善点

予約型乗合タクシーに注力した場合の改善点として求めるものは、「自宅や希望する目的地で乗降する（ドアツードアの実施）」が最も多く294人、29.4%、次いで「運行時間・予約可能時間の拡充」が141人、14.1%であった。

問4 (3) 予約型乗合タクシーに注力した場合の改善点

自宅や希望する目的地で乗降する（ドアツードアの実施）	294 人	29.4%
運行時間・予約可能時間の拡充	141 人	14.1%
運行日を増やす（現行の週2日から増）	135 人	13.5%
スマートフォンアプリによる予約	135 人	13.5%
定額制運賃の導入	89 人	8.9%
運行区域の拡充	82 人	8.2%
キャッシュレス決済の導入	65 人	6.5%
待ち時間・乗車時間の短縮	60 人	6.0%
合 計	1,001 人	100.0%

■問6（1）もっともよく行く日常的な買い物先、外食先

もっともよく行く日常的な買い物先、外食先は、「マルキョウ神埼店」が 187 人、16.9%で最も多く、次いで「スーパーセンタートライアル千代田店」が 183 人、16.6%、「ショッピングセンターアニー」が 154 人、13.9%であった。それ以外の買い物先についても利用者数の多寡は見られるものの、一定数利用されている状況である。

問6（1）もっともよく行く日常的な買い物先、外食先

マルキョウ神埼店	187 人	16.9%
スーパーセンタートライアル千代田店	183 人	16.6%
ショッピングセンターアニー	154 人	13.9%
スーパーモリナガ吉野ヶ里店	98 人	8.9%
ダイレックス神埼店	96 人	8.7%
ドラッグコスモス神埼店	88 人	8.0%
ダイレックス日の隈店	83 人	7.5%
飲食店（市外）	74 人	6.7%
ほとんど買い物・外食には行かない （家族等に頼む）	65 人	5.9%
ドラッグストアモリ神埼店	22 人	2.0%
ドラッグストアモリ神埼本堀店	21 人	1.9%
ドラッグストアモリ千代田店	16 人	1.4%
飲食店（市内）	12 人	1.1%
ほとんど買い物・外食には行かない （宅配便、配食サービス等を利用）	5 人	0.5%
合 計	1,104 人	100.0%

■問 6（2）買い物、外食の頻度

買い物、外食の頻度は、「週 1～2 回」が 674 人、50.1%で最も多く、次いで「週 3～4 回」が 442 人、32.9%であった。

問 6（2）買い物、外食の頻度

週1～2回	674 人	50.1%
週3～4回	442 人	32.9%
週5回以上	116 人	8.6%
月1回程度	92 人	6.8%
年に数回	21 人	1.6%
合 計	1,345 人	100.0%

■問 6（4）日常的な買い物、外食の時間帯

日常的な買い物、外食の時間帯は、「10 時～12 時」が 590 人、30.1%で最も多く、次いで「15 時～18 時」が 484 人、24.7%となっている。最も少ないのは「8 時より前」で 38 人、2.4%である。

問 6（4）日常的な買い物、外食の時間帯

8時より前	38 人	1.9%
8時～10時	152 人	7.7%
10時～12時	590 人	30.1%
12時～15時	346 人	17.6%
15時～18時	484 人	24.7%
18時以降	353 人	18.0%
合 計	1,963 人	100.0%

■問 8（1）もっともよく行く通院先

もっともよく行く通院先は、「その他市外の通院先」が 352 人、27.3%で最も多く、次いで「ほとんど病院には行かない」が 310 人、24.0%、「その他市内の通院先」が 239 人、18.5%となっている。それ以外の通院先についても問 6（1）買い物先、外食先同様、利用者数の多寡は見られるものの、一定数利用されている状況である。

問 8（1）もっともよく行く通院先

その他市外の通院先	352 人	27.3%
ほとんど病院には行かない	310 人	24.0%
その他市内の通院先	239 人	18.5%
橋本病院	111 人	8.6%
ごんどう耳鼻咽喉科	49 人	3.8%
神埼病院	38 人	2.9%
古賀内科	38 人	2.9%
中下医院	34 人	2.6%
南医院	34 人	2.6%
なかしま整形外科クリニック	22 人	1.7%
和田記念病院	21 人	1.6%
くらとみ眼科医院	14 人	1.1%
神崎市国民健康保険脊振診療所	12 人	0.9%
こばやし歯科医院	7 人	0.5%
迎島歯科医院	7 人	0.5%
江頭歯科医院	3 人	0.2%
合 計	1,291 人	100.0%

■問 8（2）通院の頻度

通院の頻度は、「月 1 回程度」が 630 人、52.9%で最も多く、次いで「年に数回」が 448 人、37.6%であった。

問 8（2）通院の頻度

月 1 回程度	630 人	52.9%
年に数回	448 人	37.6%
週 1～2 回	88 人	7.4%
週 3～4 回	22 人	1.8%
週 5 回以上	2 人	0.2%
合 計	1,190 人	100.0%

■問 8（４）通院の時間帯

通院の時間帯は、「8 時～10 時」が 527 人、33.1%で最も多く、次いで「10 時～12 時」が 525 人、33.0%となっている。午前中に通院する人が多く、「8 時～10 時」、「10 時～12 時」と回答した人を合わせると 1,052 人、66.1%になる。

問 8（４）通院の時間帯

8時より前	45 人	2.8%
8時～10時	527 人	33.1%
10時～12時	525 人	33.0%
12時～15時	168 人	10.6%
15時～18時	295 人	18.5%
18時以降	31 人	1.9%
合 計	1,591 人	100.0%

（２）新しい地域公共交通システムの方向性

上記のアンケート結果から神崎市における公共交通に求められるポイントを以下に整理する。

①大きなシェアを誇る商業施設・医療施設等の目的地が存在せず移動ニーズが多様化している。

⇒路線を固定せず、細かいニーズに合った移動を支援

②外出時間帯は目的別に見ると若干の傾向が見られるが、利用者や外出目的によって異なり、8 時～18 時の間で分散している。

⇒利用者それぞれの外出に適した時間帯に運行

③現在の曜日運行の形態では、乗りたい日に利用できない。

⇒運行日の拡充

1）市内巡回バス

市内巡回バスを利用しない理由で、多かったものは「行きたい場所に路線がない」、「乗りたい時間に運行されていない」などであった。多様化する利用者ニーズに対して、路線定期運行方式で対応する場合、路線・便数の追加が必須であり実現には膨大な公的負担が発生することが想定される上に、「自宅からバス停まで」の移動について課題が残り、利用率の向上に寄与しない可能性が考えられる。以上のことから同運行方式で利用者の求める公共交通の実現は困難であると判断し、市内巡回バスについて廃止の方針で検討する。

2) 予約型乗合タクシー

先述した「神崎市における公共交通に求められるポイント」に対応できる運行形態は、区域運行の特性を活かした予約型乗合タクシーが考えられる。アンケート調査の結果でも、問4（1）市民が望む新しい公共交通の運行形態は「わからない」を除くと、予約型乗合タクシーが355人、24.8%で最も多く、市民の期待度も高い。現在の予約型乗合タクシーの運行内容を見直し、市民のニーズに合った利便性の高いものに改善を進める。

■神崎市における公共交通に求められるポイントへの対応

①路線を固定せず、細かいニーズに合った移動を支援

⇒ドアツードアの実現

⇒AI オンデマンド交通システムによる移動効率の向上

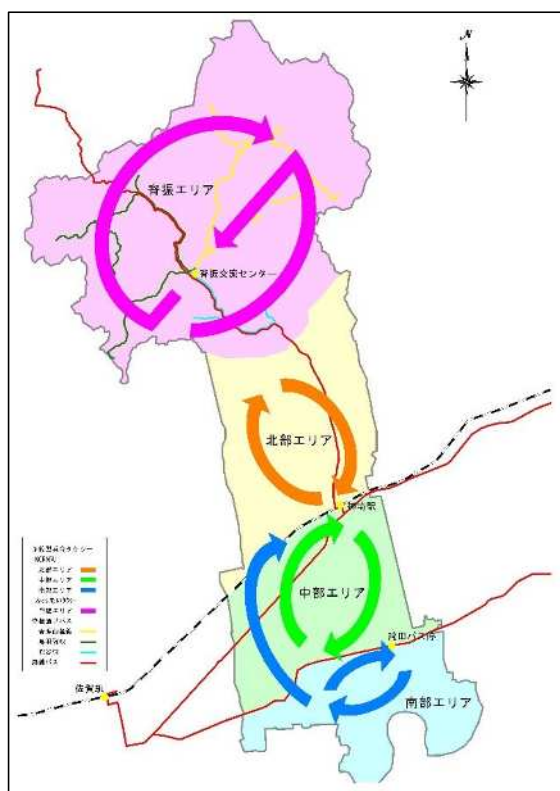
②利用者それぞれの外出に適した時間帯に運行

⇒予約時間枠の撤廃

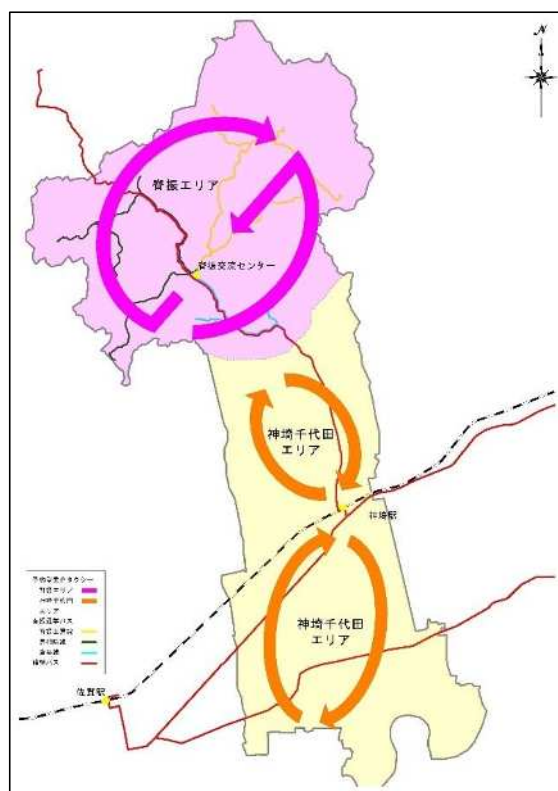
⇒AI オンデマンド交通システムによる待ち時間の減少

③運行日の拡充

⇒月～金までの運行



運行エリア【現状】



運行エリア【改善案】

■新予約型乗合タクシー（仮称）概要

①運行エリア・車両台数

脊振エリア（脊振町） 車両 1 台

神埼千代田エリア（神埼町・千代田町） 車両 2 台

②運行日・運行時間帯

月～金（祝日・年末年始を除く） 8：00～17：00

③予約可能時間

利用予定日の 3 日前から 7：30～16：30

④乗降場所

自宅、運行エリア内の希望する目的地

⑤配車システム

リアルタイムで発生する「乗降予約」に基づいた最適乗り合を瞬時に判断し、車両配車と運行指示を行う AI オンデマンド交通システムを導入
予約時間枠（便制度含む）の撤廃…運行時間内であれば利用希望時間に制限を設けない。

⑥予約方法

電話またはスマートフォン等による WEB 予約

⑦運賃

500 円

⑧電子決済・サブスク化

- ・スマートフォンアプリを導入し、電子決済・サブスク化にも対応

サブスク・定額制運賃を以下の通り検討した。週 3 回以上利用する人の場合、サブスク・定額制運賃制度を利用した方が、1 回あたりの運賃は通常運賃の 500 円よりも安くなる。

(アンケート結果から、買い物、外食の頻度は、週 1～2 回が最も多く、次いで週 3～4 回が多かったため週 3 回とした。)

サブスク・定額制運賃の検討

	割引率	計算式	月額	1回あたりの運賃 が500円を下回る 利用回数/月	週5日(月40回) 利用した場合 1回あたりの運賃
1か月	10%引き	$500\text{円} \times 2 (1\text{往復}) \times 12\text{日} \times 0.9$	10,800 円	22 回以上	270 円
	20%引き	$500\text{円} \times 2 (1\text{往復}) \times 12\text{日} \times 0.8$	9,600 円	20 回以上	240 円
	25%引き	$500\text{円} \times 2 (1\text{往復}) \times 12\text{日} \times 0.75$	9,000 円	19 回以上	225 円
	30%引き	$500\text{円} \times 2 (1\text{往復}) \times 12\text{日} \times 0.7$	8,400 円	17 回以上	210 円

※西鉄バス定期運賃の計算式を参考とした。西鉄バスは割引率 25%

※計算式 12 日 = 3 日/週 × 4 週

※週 5 日利用した場合 1 回あたりの運賃の計算式 金額 ÷ (週 5 日 × 2 (1 往復) × 4 週)

予約型乗合タクシー現状と改善案の比較表

	NORARU	ふれあいタクシー	新予約型乗合タクシー
運行 エリア	北部エリア 中部エリア 南部エリア	脊振エリア	脊振エリア 神埼千代田エリア (エリア名仮称)
車両台数	1台	1台	脊振エリア1台 神埼千代田エリア2～3台 計3～4台で運行
運行日	北部エリア：月・木 中部エリア：水・土 南部エリア：火・金 (祝日・年末年始除く)	月～土 (祝日除く)	脊振エリア：月～金 神埼千代田エリア：月～金 (祝日・年末年始除く)
運行時間	8時30分～17時 行き5便、帰り5便	月～金：9～16時台 土：9～15時台 行き3便、帰り4便	8時～17時or18時 行き便、帰り便の枠組みの 撤廃 運行時間内であれば、 いつでも行ける、いつでも 帰れる
乗車場所	自宅近くのバス停、 指定施設	自宅近くのバス停、 脊振交流センター	自宅、 エリア内の目的地
配車 システム	オペレーターが配車 予約可能時間枠あり 行きの便、帰りの便あり	オペレーターが配車 予約可能時間枠あり 行きの便、帰りの便あり	AI配車システム 予約可能時間枠の撤廃 行き便、帰り便の枠組みの 撤廃
予約方法	電話	電話	電話又はスマートフォン等 によるWEB予約
運賃	大人(中学生以上) 300円 子ども(小学生) 150円	大人(中学生以上) 300円 子ども(小学生) 150円	大人(中学生以上) 500円 子ども(小学生) ●円※
予約可能 時間	—	—	利用予定日の3日前から 7時30分～16時30分

※子ども料金については大人料金確定後
半額程度(100円単位)の料金で設定予定

⑨地域間幹線バスとの乗り換え・交通結節点

■脊振エリア

・交通結節点

脊振交流センター（ジョイックス交通 三瀬神埼線に接続）

・三瀬神埼線との乗り換えポイント

脊振交流センター（その他三瀬神埼線バス停）

■神埼千代田エリア

・交通結節点

神埼駅（西鉄バス 鳥栖・神埼線に接続）

・神埼線（40 番）との乗り換えポイント

神埼協和町バス停、神崎市役所前バス停、神埼駅通りバス停、
その他神埼線バス停

・鳥栖・神埼線（43 番）との乗り換えポイント

神埼駅、神埼駅通りバス停、その他鳥栖・神埼線バス停

・江見線（45 番）との乗り換えポイント

仲田町バス停、詫田バス停、その他江見線バス停